

第4回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和2年11月6日(金) 午後3:00～

終了 午後4:45

会 場 文化センター2階 中公ホール

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 事務局からの説明

4 協 議

(1)

○委員長

それでは、発表の方に移りたいと思います。A、B、C、D4つのグループですので、Aグループからよろしく願いいたします。Aグループは、地区住民代表のグループとして、地域民の立場ではどうだったのか、発表をお願いします。

○委員A

Aグループ発表担当です。学校の大きさや地域の部分がございまして、今のところ中部小学校はそのまま残して、寒河江小学校と南部小学校を統合、残りの学校を統合、という形になるのではと思います。「吸収された」という恰好を取りたくないなということで、例えば、西根小学校にまとめて統合となると、「嫌だ」ということになると思うので、新しく学校を作り、「あの学校であれば行っても良いなあ。統合になってもいいなあ」と思ってもらえる学校を作ってもらいたい。

学校の場所は、ある程度利便性の良い場所を選んでいただいて、「遠い」とか言ってしまうときりがないので、例えば西川町ではすべてバスで通っている訳なので、バスを利用すれば遠くであっても問題ないと思います。

醍醐小学校では特認校になっていますが、あまりメリットはないように感じております。校長先生にお話を聞くと、もっと特徴ある特認校にしていきたい。学校に行きたくない子どもが通う学校ということではなくて、勉強で、例えば英語を小学生の時から喋れるようにしたいとか、あるいは、プログラミングを英語とともに学習させたりとか、そんな話がありました。そのような特徴を持った特認校として、1つ残しておいても、そういう学校なら行ってもいいなと思ってくれる子どもがいてくれればということで、我がままかもしれませんが、一番新しい学校ですので、残してほしいなという気持ちを含めて提案します。

○委員長

ありがとうございます。いろんなご意見ご質問があるかと思いますが、この協議の場は別に設けるとしまして、次にBグループをお願いします。Bグループは、学校代表で市内小中学校の校長先生方がメンバーとなっております。

○委員B

Bグループ発表担当です。いろいろと考えた結果、このグループでは現実的な案となりました。ただ、地域住民の方々の感情の面などは、一切考慮されておりませんので、その点、後ほどご意見いただきたいと思います。私達が考えたのは、5校ないし6校案です。

内訳についてですが、まず陵西学区の高松小学校・醍醐小学校・白岩小学校を1つにして、学校新設したいと考えております。

配布資料の令和7年度の児童数ですが、陵西学区1校にすると171名、陵東学区については、寒河江小学校はそのまま残して344名、西根小学校と三泉小学校を統合して310名になります。仮に陵西学区の方を「西部小」とするなら、こちらは「東部小」とでも呼ぶことになるかと思えます。南部小、柴橋小はそのままにして。

あるいは、寒河江小学校・西根小学校・三泉小学校を統合するという案もありかと考えました。そうすると、650名程ですので中部小学校と同等の規模となります。寒河江中部小学校は、21～24学級ということになりますので、本当は中部小学校の学区を何とか変えて、南部小学校と柴橋小学校を増やしていくという方向性はどうかのかなという考えもあったものですから、5校ないし6校という案にしました。しかし、中部小学校の令和4年問題というものが見つかりまして、配布資料の児童生徒増減表を見ますと、中部小学校の令和4年度の児童数は659名と激増しております。そういった点を踏まえると、令和10年に中部小学校の学区改編を行っても間に合わないと思います。その前に校舎を増設しなければならないという問題が出てくるのではないかと考えております。そうしますと、やはり中部小学校はそのままの方が良いのかと。

それまでには、段階的にいろいろなことを考えていく必要はあるのですが、一番現実的に考えると以上のような5校ないし6校案になると思います。Bグループの一つの案として、提案したいと思います。

○委員長

続いて、Cグループお願いいたします。Cグループは、保護者代表のメンバーとなっております。

○委員C

Cグループと申します。結論から言いますと、Cグループでは3校という案になりました。基本的な考え方として、中部小学校が1つ、寒河江小学校と南部小学校で1つ、それ以外の醍醐小学校・西根小学校・三泉小学校、高松小学校・白岩小学校・柴橋小学校で1つ、以上3校というふうに考えました。

令和7年度的人数的には中部小学校671名、寒河江小学校と南部小学校を合わせて532名、その他小学校まとめて677名ということで、おおよそ同じ規模の3校となります。ただ、小規模校をまとめた場合、かなり広範囲な地域に跨るということになるので、もしかすると醍醐小学校・西根小学校・三泉小学校で343名、高松小学校・白岩小学校・柴橋小学校で334名の4校になっても良いのかなという考えです。

話し合いの経過ではありますが、今の学区関係なく人数で単純に割り振って良いものなのかという意見もありましたが、今の学区を分断して再編成するということは、理解を得ることがとて

も難しいのではないかと思われました。ですので、基本的には今の学区を合わせていくような形で考えた方が良くはないかと思いました。

Bグループの案に似ておりますけれども、いきなりこの段階に持っていくのは少々ハードルが高いのではないかという意見もあり、例えば、新しく計画した学区の中で、比較的新しい校舎の小学校があるかと思しますので、一旦集まることのできる場所は、その小学校に集まって、いずれは新しい校舎で1校になっていくような、長い時間をかけて、心の準備をしてもらって、そして統合するというような、段階を踏んだ形で進めていくというようなやり方が、ソフトランディングでいいのではないか、という意見もありました。以上がCグループの発表となります。

○委員長

最後に、Dグループお願いいたします。Dグループは、幼児保護者代表のメンバーとなります。

○委員D

Dグループです。Dグループでは、段階的に6校から5校へ、または4校に絞っていくことが良いのではないかということで、最初に6校にするところについては、白岩小学校・高松小学校・醍醐小学校を1つにまとめて、次いで三泉小学校・西根小学校を1つにまとめて、寒河江市全体で6校という形にしたらいいのではないかという話になりました。ただ、教室の数や校舎の築年数といった問題があります。醍醐小学校は新しい校舎なので、醍醐小学校に他の小学校をまとめるのがいいのではないか、という案も出たのですが、教室数やグラウンドの狭さなどがあり、やはり最初に6校にすることで、さまざま見えてくる部分があるのではないかということで、6校にするという案です。三泉小学校も比較的校舎が新しいということで、三泉小学校に西根小学校の児童を一緒にするという案も出たのですが、その際も教室数の問題が課題になると思われました。最終的に4校～5校にした際に、白岩小学校・高松小学校・醍醐小学校・三泉小学校・西根小学校を一つにして校舎を新設し、その他については、令和7年度の人数予測を見てもある程度人数がいるので、そのまま据え置きでも問題ないのではというところでした。

やはり建物の問題と、地域住民の感情的な問題がありますので、難しいとは思いますが、段階的に6校から5校へ、または4校にするという案になりました。

○委員長

これですべてのグループの発表が終わりました。どのグループの案にも概ね共通するのが、既存の学区の再編はないということ。むしろ今ある学区を統合していく方向だということだと思われました。

ただ、グループごとに若干違いはございます。これから全体での議論になりますけれども、最初に各グループの案に対する質問、そして再度自分の所属グループの案に対する個人の意見を出していただければと思います。今回の会議では、どの方向にするかまでは決めません。あくまで考え方を出し合ってください、それを持ち帰って次回の会議につなげていくという方針となります。それでは、質問もしくは追加で意見ある方どうぞ。A班はいかがですか。

○委員E

各グループの意見をお聞きしましたが、私どもA班は、地域住民代表ということになっていきます。今回の提案の最大のポイントは、一番下にある「その他の小学校」という一括りにしたところだと思います。先ほどから話題に上がっている通り、学区を二つに分けるということは、なかなか大変で、寒河江市でもこれまで苦労してきたことがある訳ですけれども、先程委員の話にあった通り、地域住民としてはやはり、「吸収される」という印象はあまりよろしくはないと。例えば、三泉小学校と西根小学校を一緒にして、三泉小学校の児童は西根小学校に行きなさい、となった場合は、理解を得るには時間がかかると思います。この先、児童数が徐々に減少していくことが見込まれておりますので、財政的なことをあまり考えなければ、適地に新しい校舎を作って、「中部小学校と寒河江小学校に負けない小学校をつくるんだ」というふうにすれば、地域のまとまりというか、コンセンサスも得られるのではないかと思います。小学校を作ることについては、10年先の話ですので、先ほど各班の発表では段階的な移行ということもあって、「なるほどそうだな」と思ったのですが、なかなか、以前中学校を統合する時も、様々ないきさつがあり、経験した人の話などを聞くと、なかなか大変だったということのようでした。やはり、統合するということは大変なことで、悪い言い方をすれば、最初に既成事実を作って初めに固めてしまおうということだったかもしれませんが、その辺を考えれば、こういう案もあるのかなということで、A班ではこのような結論になりました。

○委員長

例えば、高松小、西根小、白岩小、三泉小は割合隣接しているのですけれど、柴橋小を組み入れるということはできないですかね。

○委員F

柴橋小学校の児童もだんだん減っていくようでありまして、寒河江市の学校のあり方について住民に対して丁寧な説明を早めにしていけば、大部分の人は納得してくれるような気がします。

○委員長

そういう意味では、一番広い学区になるのだと思います。そうすると移動はスクールバスになるという訳ですね。では、B班はいかがですか。

○委員G

驚いて感じていることは、皆さんの意見は、我々の班の提案よりずっと進んだものだったということでした。住民の方に説明する時、びっくりされるのではないかという気がしました。Bグループはどちらかというと、何となく陵西学区の人たちは「このままでは、進まない」と感じていて、同じく三泉地区の方も、まあ、「吸収される」ということになれば抵抗があると思うのですが、「三泉小単独だけでは難しいのではないか」という思いはあると思います。ですので、現実的なことを考えると5校から6校ということで、例えば寒河江小学校を含めて「東部小学校」などということで、寒河江小、西根小、三泉小を1つにまとめて新設するというようなことは、比較的現実的なのではないかと思っています。人数からいうと難しいのは、陵南中学区では中部小学

校だと思えます。また寒河江中部小の令和4年問題ということも話したのですが、今の段階で教室が足りないとすれば実際のところ、どのように対応していくのかお聞きしたいと思いました。

○委員長

寒河江中部小学校は、現在の校舎で対応可能なのか。いかがですか。

○事務局（学校教育課 佐藤課長）

現実的に申し上げますと、これは結論ではないのですが、実際教室が足りないということで、この検討委員会での話し合いの結果に基づき、大規模な設備投資が予想されるものですから、プレハブ等で急場をしのぐというか、対応する必要が出てくるだろうと思えます。

○軽部教育長

学校とも話をしていますが、来年3クラスの児童が卒業して、4クラスの児童が入学してくるということなので、1クラスが足りなくなるわけですが、様々考え方はあるのですが、1人1台タブレット使用となると、今のコンピュータ室が必要なのか、といった議論も出てくるわけで、その場合特別教室が1つ空くかもしれない、あるいは、かつて普通学級だったところを特別支援教室として改装しているの、可能な状況となれば普通教室として復活させるとか、様々な選択肢があると思うので、既存のものをどのように運用すれば対応可能なのか、既存のもので対応できないのだとすれば、先ほど課長が言ったような対応になるのか、そんないろんな選択肢を検討している状況であり、結論はまだであるというところであります。

○委員長

要するに、統廃合に関わらず、中部小学校独自でこれからの校舎の在り方が、課題となっているということですから、それは委員会の方で十分に検討していただくということで、それに加えて統合ということはない、ということだと思ったのですが。実際に中部小学校を2つに分けるといことは、本当はないのですか。

○委員G

そのことも少し話し合ったのですが、たとえば、六供町を線路で学区分けするとか。やはり住民の方が果たして、「うん」と言ってくれるかどうかというところで、数合わせということではないのですが、学区単位で考えてみたところでした。住民の方が納得してくださるのであれば、本当であれば、学区を作り直すとかも考えられるかと思うのですが、皆さんがどう考えるかが一番だと思います。

○委員長

先ほどA班からも、過去において、そういうことで、ちょっと頓挫したという話もあったわけですけど。現実にはなかなか難しい問題だとは思いますが。学区を分離するという点については、いろんな問題が付いてくる。だからそれに触れたくない、という我々の考えもあるんですけども。本当に社会的に考えた場合に、それも検討課題として出してもいいのかな、という感じがす

るのですが、その辺、地元方の意見を聞きたいのですが。

○委員E

私たちの班は、端的に言えば「ガラガラポン」するのが一番いいと思います。ただそんな議論しても、ほとんど可能性がないのではないかということで、その議論はやめたところです。やはり合併というのは、すごく地元の方の理解が大事なので、なかなかお金もかかるし、手間もかかる話ですね。ですから、中部小学校を2分の1にするとか、そんな可能性があるのであれば、もっといい案が出るのかもしれませんが。

○委員長

中部小を分割するようなエネルギーを使うよりは、別のほうのもっといいものを、というのが住民感情だということをよく知っているということだと思います。分かりました。それではその件については、これ以上突っ込まないことにしたいと思います。それではCグループ、先ほどの説明に捕捉すること等ありましたら、お願いします。

○委員H

先ほど、3校ということで結論を出ささせていただきましたが、これは令和7年度の児童数を見て、そして以降のことも考えてのものでありますので、その間で段階的に統合を進めていくというような、最終的な方向付けとして、20年後、30年後に3校という形になるのではないかという、話をしていました。

小規模な小学校などになると、スポ少などの選択肢が狭まってしまうということもあって、ある程度の余裕を持たせてあげたほうが、子どもたちも選ぶ選択肢が広がるのではないかと。と、毎年陵南中には柴橋小の子どもが10数名入学してきますが、今の状況をみると1クラスに4人とか5人とかということになっている訳ですけど、男女に分かれると1クラスに2人ずつというようなことになってきます。そうすると、少し肩身の狭い思いをしているとか、そういった話を聞いたりもするので、ある程度のボリュームを持たせてあげた方が、小学校の子どもたちも中学校に行きやすいし、小学校でも楽しく過ごせるのではないかと。ということで、そういった長期的な視野も周知した上で、最終的には3校ないし4校にまとめていくというようなことを、検討して話をしていた方がいいのではないかと。というようなことでの、今回の結論です。

○委員長

ということは、「段階的に」ということなのですね。段階的にしていった時の、スポ少なりが絡んでくるというというのは、オープン化して行って、別に限られたものでなく、いろんなところで活躍してもらって、という前提の中で、将来はまとめていきたいという考え方なのですね。

今、スポ少についての意見が出ましたが、これに関してご意見ありますか。

○委員I

スポ少の問題ということですが、問題というよりも、保護者の考えというか保護者の方針が問題なのかなと思います。寒河江小学校に野球のスポ少がありまして、一緒にやっていた子どもた

ちが、野球のクラブチームに加入したのですが、そこは白岩小と柴橋小とで作るチームだったのでした。向こうから誘われて、加入したそうなのですが、実際練習に参加してみたら「どうして、寒河江小に野球スポ少があるのに、こっちのチームに参加するのか」という保護者の意見があったという話を聞いたことがありました。確かに、「学区内にチームがあれば、そこに加入する」という意見も正しいのかもしれませんが、今後変わってきた時に、学区の中でしか作れないのであれば、やはり選択が狭くなるのではないかと思います。ですので、スポ少自体の考え方も変えていく必要があるのではないかと、というのが私個人の意見であります。

○委員長

とても貴重なご意見だと思いました。「スポ少」というのは、どういうことかということ、やはり地域でやる趣旨な訳です。では、「地域」とはどこか、学区だけでとらえていいのか。今の中学校の部活動に対しては、先生方の働き方も含めて、もう少し働き方を緩和するために、「地域にある総合型スポーツクラブと連携しながら取り組みなさい」、それから社会体育と学校における、スポ少とかはオープン化していこうという方向性があります。そのためには、今のようなご意見として、「ただ、その地区だけではないでしょ」という考え方をもっと啓発して、意識化していかないといつまでも解決しないのではないかと感じます。貴重な意見ありがとうございます。

○委員長

最後に、D班からもお願いします。

○委員 J

先ほどの発表とは、少し経緯が違うというか、現実的ではない話かもしれないのですが、例えば、中学校が1つになる場合、寒河江市として「子どもを育てる」という考えで、学区に関係なく3つから4つの小学校へも希望制で入学できるような、そんな制度があってもいいのかなという、現実味のない話かもしれませんが、意見として出させていただきました。

○委員長

こういう考えだとするならば、根本から意見を出してみるということで、非常に大きな問題だと思います。なぜ、義務教育は学区制なのか。なぜ希望制でないのか。寒河江市というエリアの中で、学校がいくつあるときに、「選ぶ」ということが可能なのか不可能なのか。そのへんは、教育長さん。そんなあり方もどうですか。

○軽部教育長

そういった発想もあるのだろうと思いますが、私立学校でなくて、県立中学校であるとか、あるいは附属中学校であるとかは希望する方もいる訳ですけど、寒河江市内でそういったことができるのかということになると、それぞれの学校が特色ある学校としての良さを発揮して、競争が始まるのだと思います。そうした時に、競争に耐えうるような校舎のキャパなのかどうかとか、さまざま議論をして、非常に未知数な部分についても対応しなければならない、ということになって、現実には非常に難しいのだと思うのですが、それぞれの学校が、「自分の学校に来て

ほしい」「こういう特色ある学校づくりをしている」といった切磋琢磨があれば、それぞれの学校は競争心が働く訳ですから、いい教育になっていくと思うのですが、それに対応できる校舎であったり教室であったり、様々なことを検討してなくてはならないことになるのだらうと思います。まあ、遠い将来は、そのようになるのかもしれませんが、理想であるとは思いますが、現実的にはまだ難しいと思います。

○委員長

隣の西川町では、1町1小学校1中学校となっており、選ぶ余地はないですね。もうそこしかない。そういう自治体がどんどん増えています。学区というものをもう一度振り返ってみると、どこからスタートしたのかというと、もともと日本の近代教育の中で、国が何をやったかということ、日本を「大学区制」に分けたんです。「大学区制」というのは、いわゆる、そこに1つの「大学」を置いた。それが帝国大学です。大学を「大学制」にして、その次に「大学制」の中に「中学制」を作ったんですね。今の高等学校です。山形であれば山形中学校、今の山形大学の元になっています。そして、その「中学制」をさらに細かくして「小学制」を作った。それが今の小学校です。だから学区があって学校がある。これはもう、その学校に行くというのは、古来の日本の制度なんです。そうしますと、その時は、他から入るということは考えなかった。それでは縛りがあるでしょということで、今、少しオープンにしましょうということで、「特認校」というものが少しずつ出てきていて、条件を付けて許可するというような形になっています。完全な選択制というのは義務教育では、本来、取れない制度になってしまっています。本当は、そういうのが一番いいでしょうけど。まあ、そんなところを答えとして出しておきたいと思います。

○委員長

今、それぞれの班から発表いただいて、大分理解が進んできたと思いますが、さらにご意見等ありませんか。

○委員 I

学区を区分するということでの、地域の声ということについて、例えば反対意見であったり、賛成であったりということを集約すると思うのですが、その集約方法というのは、このような会合的なものを開いて、影響力の大きい人の発言に影響されて、意見が言いにくくなってしまったりとかがあって、それが地域の声になってしまうのか、それとも地域の人全員の声を集約して、集めているものなのか。その辺が、少し気になったものですから、分かれば教えていただければと思います。

○委員長

まず、この委員会としてある程度の方向性を打ち出す。そしてどの段階になるのかは分かりませんが、住民の方にお知らせする。その住民の声をどういうふうにして、アンケートなり調べていくのかということですね。課長さんいかがですか。

○事務局（学校教育課 佐藤課長）

まず私は今年から着任したものですから、これまでの資料を見させていただいた時に、これまでアンケート調査されているのを見受けました。その結果については、みなさんご存じだと思いますけれども、そういったやり方もございますし、先ほども申し上げましたが、学校のことでもめたという時は、私の記憶では、地区の説明会ということで、教育委員会の方で公民館などに行き説明したというふうに記憶しています。ですので、こちらの考え方を説明して、意見を吸い上げるというやり方もございます。あと、考えられるものとしては、学校を通じて親御さんからアンケートをいただいたりとか、またインターネットを通じてコメントをいただいたりとか、いろんなやり方はあると思います。ただこの委員会の答申というゴールが来年の12月に決まっていますので、その中で意見集約できるような形で考えていくのかなとイメージしております。

○委員A

今、話があった過去のことというのは、非常に昔のこと、もしくは田代小学校の時代のことだと思うので、ある1校だけが、すごく減ったからもう合併しかない、という状態でやったことと、今回話していることとは全く違うものだと思います。地域の意見を聞かないと、進められないんじゃないかなと思うので、そこは、過去はどうだったとかは伏せて、是非新しい意見の集約方法、周知の方法を考えていただきたいなと思います。

○委員長

強い要望がありましたけれども、この委員会として、地域の声も含めながら答申をするのか、それともこの委員会として、意見を求めて答申した上で、市の方、教育委員会にお任せして、その後対応していただく。この2つがあると思うのですが、このへんはどうでしょうか。我々としては、地域の声も吸い上げて、ということは極めて難しいんじゃないかなと、私自身考えたのですけれど。皆様のご意見はいかがですか。

○委員長

まあ、地域代表のテーブルからも「難しい、難しい」という声があるようですけれど。市の方からは、何かご意見ありますか。

○委員F

答申の前に地区民に、「将来のことを考えて、学区のあり方のことを考えています」といって、納得がいくのかということなのだと思いますけれど、やはり、住民に説明するためには「こういう方針でいきますよ」といった、ある程度はっきりした段階のものでないと、あやふやになりがちで「よくわがねんだげっと、そういうふうになりそうなのよ」なんてことでは、絶対空中分解すると思います。なので、答申をして、教育委員会とか市の方針が固まった段階で住民に下ろさないと、やっぱり、よく説明もしないのに「決めろ」とか「意見を言え」とか言っても、意見が言えない、というようなことが起きてくるのではないかと、少し危惧するところです。

○委員長

今の意見いかがでしょうか。いわゆる、住民に対して意見を求めるためには、それなりのしっかりしたものが無いと、今回の大阪都構想ですらも、なんだか、「まだ説明が足りない」と言われていて、ああいう結果になっている訳ですね。この会としては、この中における意見を集約した上で答申し、そしてその上で教育委員会の方から住民に対して、対応していただくというふうに持って行った方が、我々としてもやり易いと思います。ということで、委員長独断なのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

○軽部教育長

今、委員長からまとめていただきましたけれど、今回そのものが、まあ前身は「あり方に関する懇話会」みたいな形で、自由に意見を言っていたいたものが、「検討委員会」というふうになって、色々な立場の方から入っていただいているというのは、そういった幅広い方の意見を集約して議論をしていただき、吟味していただくという性格のもので、そして答申していただいて、なんでこういう形になったのかという根拠を示しながら、今、検討委員会としては、これが、方向性としては、BEST ではないけれど BETTER だという形を出していただいて、それを教育委員会として練らせていただいて、今後のあり方についてということも方向性を示していただいたものを、どういった形になるかはわかりませんが、説明をして、納得をしていただくような流れになるのかなというふうに思っております。先ほど、今回のあり方とはまた違っているというご意見もありましたけれども、これまで、学校、保護者だけでなく、直近では幸生小学校ですけれども、何回か教育委員会と地域の方との話し合いなどもして、保護者の方たちが合意するような形で取り組んできた訳でありますので、今後も基本的な姿勢というのは、適正な方針を示して、丁寧に説明して、そして100%にはいかないのかもしれませんが、ルールをつけるような形で、しっかりとした道筋をつけていくということが大事だと思っておりますので、先ほど委員長が言われたように、委員の方が考えていらっしゃる方向性で、会の持ち方というか、今後のあり方についてはいいのではないかと考えているところです。

○委員長

是非、そのような方向性でもらうにしても、我々としては、ただ自分だけの意見だけではなく、今日初めて小学校について検討された訳ですので、持ち帰られて、できるだけ多くの方から、「こういう検討をしているのだけど、どう思いますか」ということを、是時皆さんから聞いていただいて、それを次回持ち寄る、という方向でやっていくと、間接的ですけど声が反映されるかなと思います。

○軽部教育長

付け加えてですが、これまで3回やって来ましてけれども、中学校のあり方についてどうするかという議論については、マスコミからも取材していただいて、記事を出していただいたというのは、ここで議論をしているということも市民の方にも「見える化する」「可視化する」ことによ

って、議論を広く巻き起こして、「こういうことをやっているんだったら、こういう意見がある」というようなことが、何らかの形で委員の方に伝わったり、また教育委員会に伝わったりして、そういった透明感のあるような議論をしていきたいというような思いでやっております。今日も本当は、新聞記者が取材に来るはずだったのですが、「所用ができて来られない」と連絡をいただきましたけれど、やはりこういった議論を可視化したり、見える化することで、多くの方の意見なども聴取する、そして議論を巻き起こしていく、そして学校のあり方を検討していく、ということが大事だと思いますので、今後そのようにさせていただきたいと思います。

○委員長

今、教育長さんがおっしゃられたように、まさに我々の役目は、そのようにオープン化していくこと。この会議は、秘密会議ではありませんし、ガラス張りにしていきたい。可視化するということで。私もいろいろと、市民の方からの声をお聞きするんですけど、せめて我々は、将来を見越して意見を伺って出していきたいと思います。

まあ、今日出された考え方というのは、決まったものではありませんので、「こういう考え方がありました」ということで、お聞きしたらいいと思います。ただ、中学校については1校に確定はしていないんです。そういう声が大きかったというだけであっても、「1校案でいきましょう」と、今日は話あったけども、たとえば陵西中学区に、新庄市のように小中一貫校として特色ある機能を持たせて、人数を確保する学校としてはどうかという案だってあるんですよ。それをやってしまうと、見返すということですから、できるだけそういうところには、配慮しながら意見を出していただければありがたいなと思います。

他にご意見がなければ、次回をいつにするか事務局から提案いただきたいのですが、よろしいでしょうか。